

# 石巻市立相川小学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

## 【文献】

(1) 『子どもの命は守られたのか』教見隆生 編著(2011)かもがわ出版

## 【場所】

追波湾まで約200m、相川沢川から約80mの位置にある。

住所:宮城県石巻市北上町十三浜相川100

※現在は閉校し、別の学校と統合された。



## 【東日本大震災による被害】

津波により校舎3階まで浸水。 ※現在、校舎は取り壊されている。

## 【震災当日の様子】

校舎は3階建てであり、津波は3階の半ばまで押し寄せてきた。

この学校では、地震の際に津波の恐れがあるときは裏の山手の高台に避難することを申し合わせており、その避難訓練も定期的に行っていた。高台にある神社まですぐに上げられるように児童は訓練を行っていたが、東日本大震災の日、教職員がここでも危ないと判断し、さらに険しい山道だが上まで登らせた。山道の先に抜け道や施設があることを知っているベテランの教員がいたため、このような判断ができた。(1)

## 【調査して言えること】

学校の標高は約3mで、海から約200m、川から約80mという位置にあり、地震の際に津波を警戒した避難の必要な学校である。児童が避難したと考えられる神社は学校の裏山の中腹にあり、校舎からは50mほど離れた場所にある。標高は14mほどで、津波の避難場所としては少し低い場所である。しかし、山を登れば標高50m以上の安全な高さまで上がることができる。以上のことから、学校外への避難がしやすい学校である。



南から見た学校の跡地と避難した山(2014/3/18撮影)

※瓦礫が積まれているあたりに校舎があった。



裏山の神社(2014/3/18撮影)